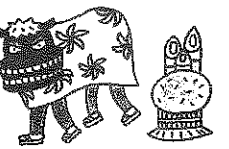


みんなの秩父

発行
日本共産党
秩父市委員会



2019年1月20日

議会報告みんなの秩父

No.222

十二月議会は、去る11月27日から12月19日までの22日間の会期で開かれました。

議案は、市職員の給与や一時金の改定および特別職・議員の一時金などの条例の一部改正のほか、市道の路線変更・廃止、工事請負変更契約、市長や議員のチラシ・ビラ作成・配布枚数など公職選挙法の公営に関する条例一部改正、子どものための教育・保育給付に係る利用負担額を定める条例一部改正、市影森共同調理場の廃止など条例一部改正、平成30年度一般会計、各特別会計の補正予算の認定、人事案件など20議案が提案されました。また、平成29年度一般会計、各特別会計決算審査について討論・採決が行われました。

最終日、市議団は、議員提案の意見書2件を提出、「被災者の生活支援の拡充を求める」意見書は全会一致で採択され、「国保税における子どもの均等割り廃止を求める」意見書は11対8で否決されました。

○「平成29年度一般会計 保育所費・児童館費について決算」審査について 反対討論

長期不況により市民を取り巻く経済環境は厳しい情勢にあり、住民税などの滞納額を見ても、市民生活の大変さを物語っている。生活困窮により市税を納付しきれない人についてはマニュアル的な徴税強化ではなく、納税者に寄り添い、実情を把握したうえで、きめ細かい対応が求められる。総務管理費、情報システム事業に多額の委託料が計上され、多額な費用が投じられている。は、その信頼性に問題がある」と指摘しつつ、きた税番号制度システム(マイナンバー)の発行件数がわずかで申請率も低い。高額な費用をかけながら押し進められようとしており、いまだにそのメリットはないことは重大だ。

保育所費・児童館費について「子ども子育て新システム」の施行に伴い、公的保育の責任放棄につながる施策の導入され、一部支援がされてはいるが研修を受けるための費用や代替職員の費用などにより市税を納付しきれない保障もない。私たちはかねてより、子どもの保育に関する職場で働く常勤者は正規職員とすべきであると主張してきましたが、相変わらず臨時パートタイマー保育士は93人となっている。生活保護費については厳しい社会状況下において、最後のセーフティネットとしての生活保護扶助費は、単価の引き下げなど、先に指摘した厳しさを増した社会情勢に込められているか。ケースワーカーの増員もあったが、1人あたり、国の基準80人をクリアしたとは言え、ケースワーカー以外の業務も行



○12月議会の特徴 「子どものための教育・保育給付に係る利用者負担額を定める条例」の一部改正 市内に居住する、未婚者など一人親家庭の保育料などの減免制度が設けられました。 「市立共同調理場条例」の一部改正について 現在、影森小に隣接し、影森小、久那小、久那幼稚園に、給食を配食している共同調理場が、老朽化したため、荒川にある共同調理場に統合するということになりました。

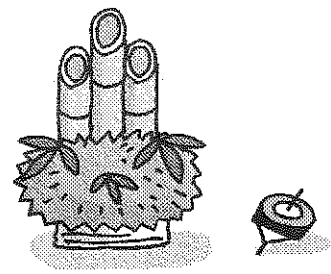
っており、時間外勤務も増加している。過重労働とも言える実態があることを指摘し、平成29年度決算に反対しました。

○意見書 「国保税における子どもたちの均等割りを廃止を求める」意見書 賛成討論 多くの国保加入者は、国保税の負担が重いと感じている。

特に均等割りには家族全員に影響があり、社会保険にはない制度だ。家族構成の中の子どもの一人当たりの年間支払金額は、秩父市では支援分を合わせると19,000円になり、大きな負担となる。 子どもたちにかかる均等割りを廃止するよう国に働き掛けるべきと訴え、賛成の討論を行いました。

企業誘致の決定が 報告される

12月議会開会中に、旧秩父セメント第一工場跡地の一部に企業誘致が決まった旨が報告されました。 同地は、現在、太平洋セメントによる造成工事が進んでいます。その一部、敷地面積約20,800㎡に株式会社オプナス(皆野町に工場がある)が2020年度中の稼働を目指して、工場の建設をしていく予定との報告がありました。 同社は、扉などに取り付ける錠前、錠などを製造している会社で、200人規模で稼働されるとのことでした。



生活相談お受けします

出浦あきえ 090-3506-9060

桜井ひとし 090-4011-6960

山中すすむ 090-2651-5957

弁護士紹介します。

※ 議会報告「みんなの秩父」の発行費用の一部に政務活動費を使用しています。



出浦さえ議員の一般質問

教職員の多忙化解消について

教職員の多忙化は解消できるか。多忙化の背景に何があるか、解消に向けた取り組みは。

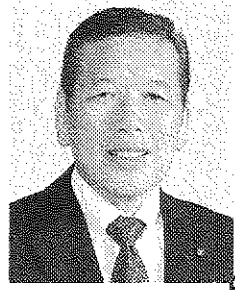
教育長答弁では、多忙の背景に、小学校では、担任教員の授業時間が多く、準備等に費やす時間が多し。英語教育やプログラミング教育、国際理解教育、情報教育、環境教育など新たな教育内容が増加している事。

中学校においては部活動が勤務時間を超えて行われている事やいじめ等の生徒間トラブルや不登校等の対応に加え、SNS、ネット・トラブル等の新たな生徒指

導の対応が生じている事。

また、小中ともに勤務時間外にかかってくる電話が多い事や各種団体から絵画展等の作品依頼があること等多忙化の背景。何よりも教職員が健康で生き生きとやりがいを持って仕事をし、児童・生徒と向き合う事ができる環境をつくる事が大事。

出浦議員は、国の政策に問題があり教職員の長時間労働の一番の原因は、教職員の増員をすること無しに授業時間を増やしてきた。国の責任で増員を図ることが求められていると指摘し、教職員の健康や心に余裕があつてこそ、子どもたちの信頼関係がつけられる。子どもたちのために教職員の多忙化解消を図るよう要望しました。



山中すすむ議員の一般質問

ペタンク全国大会の取り組み状況について

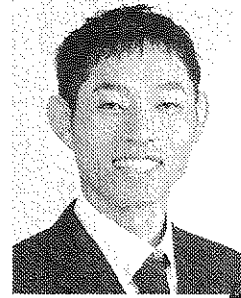
ペタンクは、1910年に南フランスで生まれた。誰でも楽しめる球技で、ヨーロッパを中心に普及しているスポーツです。現在、世界55ヶ国以上でペタンク競技が行われており、子供から高齢者まで親しまれている。対等に競技を行なうことができるため世代間交流が図れること、ルールが複雑でなく誰でも直ぐに競技を始めることができ、広場など、少しの場所でき、気軽にプレーできる競技です。



市内各町会に複数のチームもあり、選手も各種大会に参加し、県や全国でも優秀な成績を収めており、秩父市は「ペタンクのまち」として知られている。今年10月に開催される全国大会の取り組みはどうなっているか質しました。

当局は、今後、市のペタンク連盟と細部について打ち合わせを行う予定であり、市として会場や細かい要望など、できる限りの支援を行いたいと答弁。

その後、会場は市営グラウンドを予定。今後、テントやトイレについても詰めていくということを聞きました。「ペタンクの街」にふさわしい取り組みを望まれます。



桜井ひとし議員の一般質問

住宅リフォーム制度について

9月議会に、引き続き住宅リフォーム助成制度について質問をしました。

住宅リフォーム助成制度は、今年度で15年が経過したが制度の見直しはされていない。市では申請期間が約1週間しかなく、利用も1世帯1回しか利用が出来ない。他の自治体では申請期間が予算到達まで通年の受付を行っている。利用も5年に1度利用ができる町がある。受付期間の延長や複数回利用できるなど、見直す考えがあるか。質しました。当局は、市民から2回目のリフォームを行いたい。別箇所のリフォームをしたいと

いう要望も例年来ている。

受付初日に全申請数の半分以上が集中し、申請受付に時間がかかっているといった現状。こうした現状に鑑み、より利用しやすい申請受付方法や2回の助成利用について適正な時期を考慮し制度の見直しを図るよう、課内でも協議しているが10年サイクルはどうか検討している。

再質問で、リフォーム助成制度と介護保険制度による手すりの設置など住宅改修の際に併用して利用できないのか質しました。当局は、助成の対象を本市による他の助成を受けていない工事としている。市から受けている給付が二重の受給となってしまうため現状では利用はできないと答弁。

桜井議員は、市民の利用しやすい制度にするため、是非、実施できるように要望しました。

二次救急輪番病院(救急医療)体制の今後

山中議員は12月議会で、現在、2次救急輪番体制は3病院で救急を行っている。2020年度より秩父病院が撤退するという話があり、1年から提起されている。

1年後とはいえ、差し迫った2次救急輪番体制の維持について、将来設計も含め、どのような対策を考えているのか。市立病院地域の中核病院として、住民の医療完結型として充実した医療が望まれる。医師などスタッフの確保で安心した医療が施されるよう、3人の議員が質問しています。市当局は、市民や秩父地域に住む住民が安心して医療が受けられるよう努めると答弁。共通して言えることは、充実した医療が

望まれることでもあります。

秩父病院院長も、一昨年6月の市報に、「平日夜間および休日の救急を市立病院に集約すべきです。医師は当院や他の救急告示病院、医師会の有志の先生方も参加していただき、地域内でも集約化、効率化が唯一有効な方策と考えられる。市民が現状を知り、自ら考え、生活の中で当地域の救急医療の在り方を模索し、主体性をもって創り上げて行くことが理想。さらに消滅市にならぬよう、今こそ市民自らが、生き残りを賭けた救急体制の構築」が必要と述べています。

私たちは、こうした現状を踏まえ、医師やスタッフの確保と処遇改善も必要であり施設面の環境の整備と充実を訴えました。